

# 令和8年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『生産者と消費者が互いに支え合える風土づくり』

活動団体の活動地域：徳島県

活動団体名：一般社団法人とくしまCSA風土

中間支援主体名：認定NPO法人とくしまコウノトリ基金

# 参加団体の基本情報

## (1) 活動団体の基本情報

団体名	一般社団法人とくしまCSA風土
活動地域	徳島県
専門性・強み	
#CSA#農業#食育#消費者教育#行動変容#健康#食料システム#徳島県農林水産審議会委員	

団体概要
<ul style="list-style-type: none"><li>・ミッション：環境と調和の取れた食糧システムの確立と、人々の健康、豊かな食文化を未来に繋げるため、生産者と消費者をつなぐCSA（Community Supported Agriculture）を主として徳島県内全域に広げ、全国さらには世界にネットワークを広げる。</li><li>・取組内容：勉強会の開催、マルシェの開催、農業体験、CSA立ち上げの支援、地産地消の促進、交流会の開催、小学校への出前授業や企業等での講演</li></ul>

## (2) 中間支援主体の基本情報

団体名	認定NPO法人とくしまコウノトリ基金
活動地域	徳島県
専門性・強み	
#コウノトリ #ビオトープ #環境保全型農業	

団体概要
<ul style="list-style-type: none"><li>・ミッション：コウノトリをはじめとする希少鳥類の定着と繁殖を目指す活動及びその他野生生物の保護活動を実施・支援することを通じて、豊かな自然を活かした地域農業や地域経済の活性化に寄与する。</li><li>・取組内容：コウノトリ野生復帰の実現に向けた環境整備、農業や経済活動の活性化、環境教育・啓発、環境・産業・文化の情報発信、活動資金の確保</li></ul>

# 活動団体と地域の紹介

## とくしまCSA風土の現状の活動

風土・文化を活かした、「徳島版フードシステム」の確立を目指す。



# 活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

## ■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

風土・文化を活かした、徳島版フードシステムの確立  
人が作る喜び、食べる喜びを共有することで、人と環境に優しい農業と食文化が発展し、生きる喜びがあふれている徳島

## ■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

環境に配慮した農業を实践し農業体験の受け入れが可能な農家、食農教育の実践者、教育現場、飲食事業者といった“実践主体”に加え、サステナブル経営を志向する企業や金融機関、ネイチャーポジティブに関わる関係者、さらに農業・食育に関わる自治体等が連携し、農家と消費者をつなぐ基盤を構築する。あわせて、現状の課題を整理しつつ、持続可能なフードシステムの実現に向けた関係性の構築を検討・実践していく。

## ■ローカルSDGs事業として取り組む内容

1. 食と農に関する社会課題解決のためのコミュニティ形成
2. CSA文化の浸透と環境にやさしい農業の普及
3. つながりをベースにした地域経済の循環事業

## ■地域の現状と課題

1. 課題
  - ・生産者の高齢化と担い手不足が深刻である。
  - ・消費者は農作物が自然に依存していることに関する理解が乏しく、生産者の現状についての理解も不足している。
  - ・環境にやさしい農業に取り組む小規模農家への支援体制が乏しい。
2. 地域の自然資本
  - ・小規模で環境保全型農業に取り組む生産者
  - ・温暖な気候で水が豊富
  - ・農作物の栽培に適した豊かな土壌
  - ・自然循環型の伝統農法など、昔ながらの農法が活かされている
  - ・独自の食文化が存在する

# (参考) ローカルSDGs 事業の紹介

## 食と農に関する社会課題解決のためのコミュニティ形成 農的暮らしのプチ体験（地域との協働事業）

### 【概要】

2日間阿波市に滞在し、農業体験を通じて地域とのつながりをつくるツアーを開催。こひめ農園でのお米の収穫体験、おむすび作りと食べる瞑想、地元宿泊施設での地元食材を使ったコース料理を楽しみながら地域の人との交流、阿波市の自然公園で野外ヨガを行うなど、阿波市の地域資源を存分に堪能するツアーを開催した。

企画途中から阿波市移住交流支援センターと連携した。

【段階】実施 → 2026年度企画検討中

【実施時期】2025年11月15～16日

### 【活用している自然資本・地域資源】

地域おこし協力隊  
阿波市移住交流支援センター  
阿波市の環境保全型農業  
地元宿泊施設  
地元自然公園

### 【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・阿波市が推進している新規就農や移住促進の取り組みへの貢献
- ・地域のつながりの強化
- ・県外からの移住検討につながった。

### 今後の展望

2026年度は阿波市と共催で実施予定  
同様の企画を他地域に提案する予定

## CSA風土の浸透と環境にやさしい農業の普及 CSAの立ち上げ・継続

### 【概要】

こひめ農園の自然栽培講座、親子体験パック  
あめつち自然農園の畑づくり講座  
すずきファームのじゃがいもCSA  
自然農園マユコベの田んぼと学びのワークショップ  
4つの農園で5つのCSAの立ち上げと継続支援を行った。

【段階】実施 → 2026年度企画継続、新規企画検討中

【実施時期】2024年11月～現在

### 【活用している自然資本・地域資源】

4軒の環境保全型農業を実践する生産者

### 【事業により生じたor 生じそうな成果】

- 生産者のポジティブな変化
- ・地域との交流が農業へのモチベーション向上に
  - ・春先に収入が減るお米農家の不安の解消
  - ・生産者の収入UP

### 参加者の行動変容

- ・家庭菜園の継続
- ・新規就農、農園継承への挑戦
- ・不耕起栽培による米づくりへの挑戦
- ・幼児向け農業体験を自主的に企画・実施

### 今後の展望

2026年度もCSAのカタチを改善を重ねながら継続して実施

# (参考) ローカルSDGs 事業の紹介

## 食と農に関する社会課題解決のためのコミュニティ形成 食と地球の未来を考える会・IPPO Project

### 【概要】

#### (1) 食と地球の未来を考える会

生産者と消費者をつなぐ取り組みの話を伺い、消費者と食と農への理解・意識改革や、地域の小規模農家を支える方法について考える勉強会。

#### (2) IPPO Project

「食とウェルビーイング」を切り口に、自分らしい最初の一歩を見つけ、実践につなげることを目的とした消費者教育プログラム。

### 【段階】実施 → 2026年度企画検討中

【実施時期】(1) 2024年度より継続中 (2) 2025年12月開始

### 【活用している自然資本・地域資源】

・徳島県内外の有識者

### 【事業により生じたor 生じそうな成果】

(1) 県外からの参加者も増え、徳島県外からわざわざ足を運ぶ動きが生まれている。本取り組みは「徳島における先進的な食と環境の学びの場」として徐々に認知が広がりつつある。

(2) 2025年12月以降、継続的なブラッシュアップを重ね、ワークショッププログラムとして体系化が進んでいる。参加者には「自宅で週1回の料理習慣が定着」「地元(徳島)の食材を選択する意識の向上」など、具体的な行動変容が起きている。さらに参加者同士で共有・応援し合う仕組みが、継続的な行動変容を後押ししている。

### 今後の展望

(1) 2026年度は年4回開催予定。

(2) モニター募集を経て、2026年6月完成予定。2026年4月より、月1回オープン開催中。

## つながりをベースにした地域経済の循環事業 オーガニックマルシェの開催

### 【概要】

生産者と消費者の垣根を超えて同じ地域にいる人が集う場として、農家さんが愛情込めて作ったお野菜の販売や、その食材を使った食事の提供を行う。徳島市の阿波観光ホテルで毎月最終日曜日に「あわかんオーガニックマルシェ」を開催している。

### 【段階】実施 → 2026年度企画決定

【実施時期】2024年度より継続中

### 【活用している自然資本・地域資源】

・環境保全型農業を実践する生産者  
・阿波観光ホテル(協力企業)

### 【事業により生じたor 生じそうな成果】

来客数は、開始当初の70~80名規模から、3年目には安定的に100名を超える規模へと成長し、地域内外での認知度が着実に広がっている。

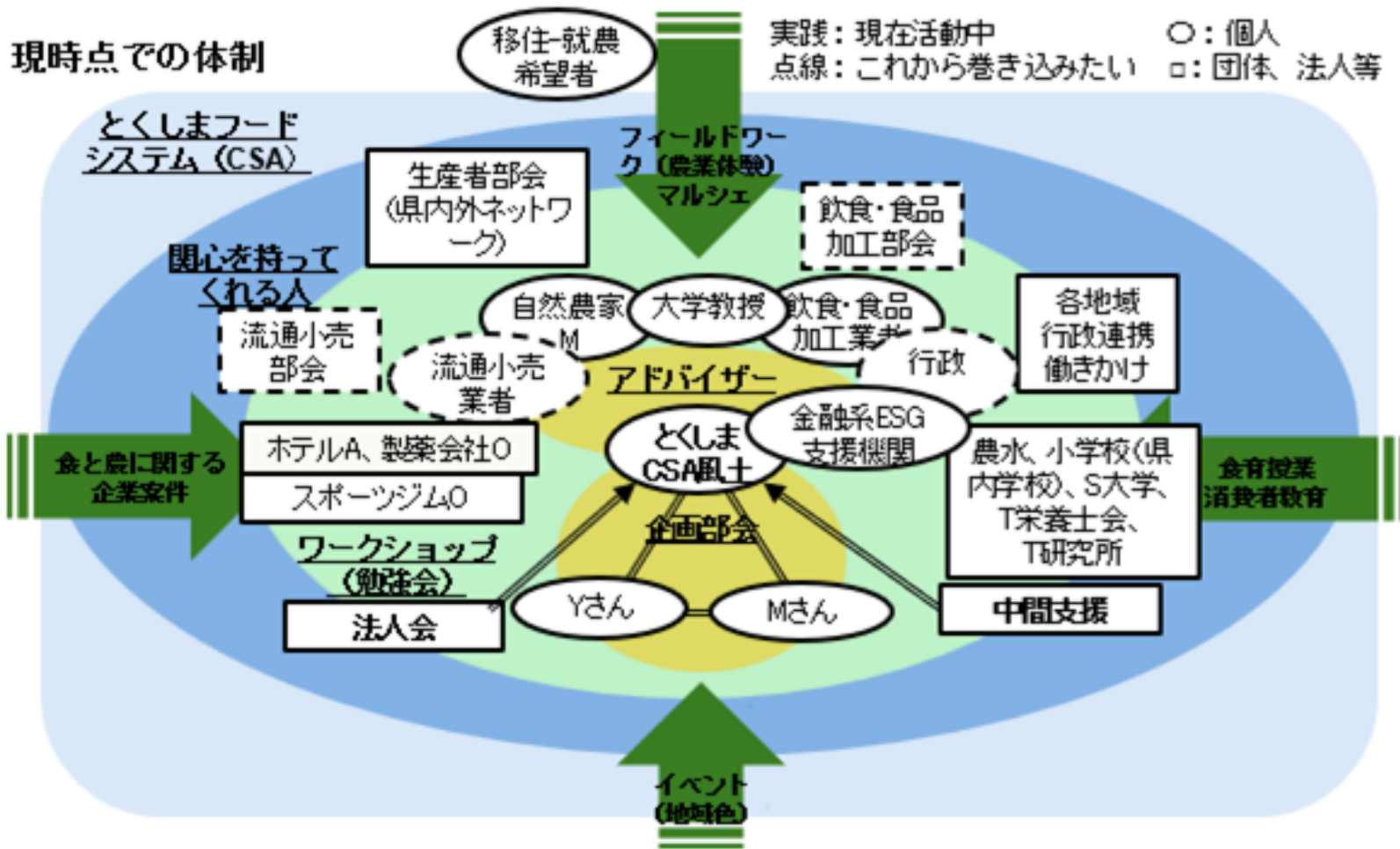
また、出店者数も当初の5軒から現在は安定的に8軒へと増加し、継続的に関わる事業者の広がりが見られる。本取り組みは、農業や食に関心のある若者や、同じ志をもつ人々が出会い、つながる「仲間づくりの場」として機能している。さらに、農家同士の交流の場としてだけでなく、消費者との

対話を通じた商品改良のためのヒアリングの機会にもなっており、生産者の活動の質向上や新たな挑戦を後押しする場となっている。

### 今後の展望

2026年度も毎月最終日曜日に開催予定(年12回)

# (参考) 現状の地域プラットフォーム

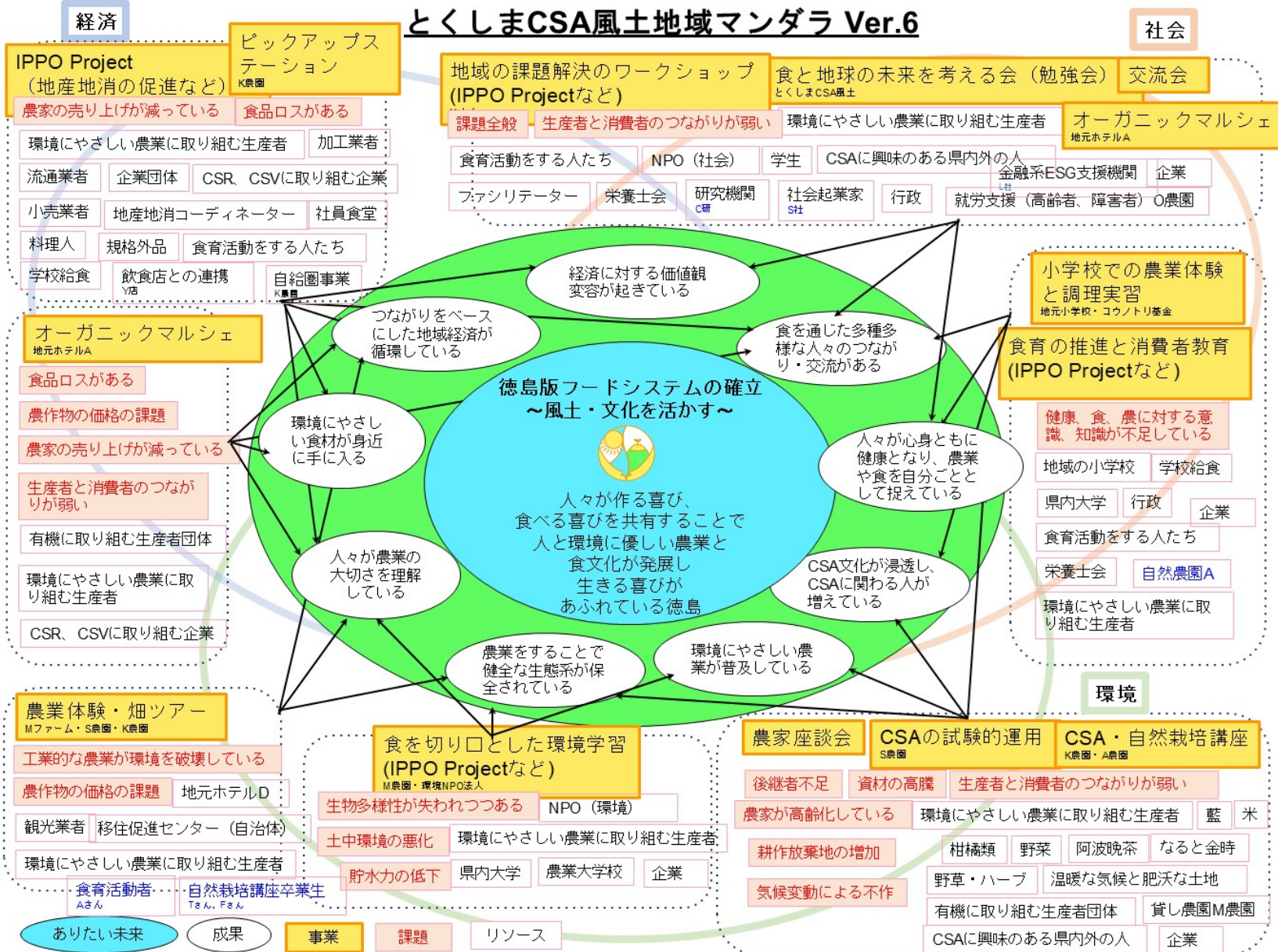


地域プラットフォーム

活動地域：徳島県  
 作成者（団体名）：一般社団法人とくしまCSA風土  
 作成日：20260313

# (参考) 現時点のマンドラ

## とくしまCSA風土地域マンドラ Ver.6



# 3 力年状態目標

## ■2027年度（2027年4月から2028年3月）末の状態目標

- ・ CSAを実践する徳島の農家・消費者が増えている。
- ・ 徳島のフードシステムにCSAの仕組みが加わっている。
- ・ IPPO Projectが全国展開している。また、自治体、企業との連携が進んでいる。

## ■2026年度（2026年4月から2027年3月）末の状態目標

- ・ 訪問した企業の中で、食と農に関する企業案件の事業を実施している。（3件）
- ・ マルシェを毎月開催し、農家とファンになった消費者で交流が盛んに行われている。
- ・ 農業体験を定期的に開催し、CSAに参画したいと思う消費者が多く現れている。
- ・ 勉強会を3ヶ月に1回開催し、とくしま版フードシステムについてブラッシュアップしている。
- ・ 生産者部会（農家座談会）に加え、多様な立場の方が参加できるオンライン対話会を定期的に開催している。
- ・ 他地域のパートナー団体とCSA風土づくりについて互いの強みを活かし高め合う関係ができています。（2団体以上）
- ・ 徳島県内の自治体の一つでCSA風土づくりが行なわれている。（1自治体以上）
- ・ 農業したいなら、自給自足したいなら徳島へという風土が広がっている。（機会の創出）
- ・ 賛助会員が個人会員100人、企業会員5件

## ■2025年度（2025年4月から2026年3月）末の成果と振り返り

- ・ 新たに5社の企業を訪問している。→18社
- ・ 新たに20軒の農家を訪問している。→15軒
- ・ マルシェを毎月開催し、農家とファンになった消費者で交流が行われている。→農家と消費者の交流が広がりつつある
- ・ 食育推進全国大会でセミナー、展示ブースを出展し、全国に取り組みを知ってもらう。→取材や講演依頼が増えた
- ・ 農業体験を企画し、定期的に開催している。→21回開催
- ・ CSAが5軒始動し、かつ2年目も継続している。→4軒継続中
- ・ 勉強会を3ヶ月に1回開催し、とくしま版フードシステムについて議論できる体制を作っている。→理想のとくしま版フードシステムについてビジョン作りを行った
- ・ 生産者部会を定期的に開催し、CSA等の議論を行っている。→7回開催
- ・ 徳島県農林水産審議会に参加し活動の中で得られた知見を徳島県の農業政策に結びつけている。→これから
- ・ 全国のCSA団体と繋がっている。→兵庫県とのつながりが出来つつある
- ・ 賛助会員が個人会員100人、企業会員5件→個人会員14人、企業会員3件

# 今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先するアクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと（ヒト/モノ/カネ/仕組み/機能等々）
①	地域のビジョンを描く	通年	<b>【CSA風土の浸透と環境にやさしい農業の普及】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近に農業に触れる機会として、様々な農業体験の機会を作る。同時に農業体験に対話やワークを取り入れ、参加者の気づきを促す機会や環境づくりを行う。</li> <li>・様々な農家さんとのつながりを作り、定期的な訪問や必要に応じて支援を行う。</li> </ul>	農家、子どもと関わりのある事業者、CSRCSVに取り組む企業、大学生、あわかんマルシェ
②	仲間を探す	通年	<b>【食と農に関する社会課題解決のためのコミュニティ形成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外を問わずプラットフォーム連携先を探し、交流し、連携を模索する。</li> <li>・賛助会員（個人、企業）を増やす</li> <li>・勉強会、対話会などを定期的に開催し関心層を増やす。</li> </ul>	広報、あわかんマルシェ、対話会、勉強会、講演会
③	体制を整える	①2026年8月 ②通年	①理事3名の役割分担を明確にする ②自治体や企業との接点を増やす	①定期的なミーティングの開催。ホラクラシー的な組織運営の導入 ②地域や企業の特徴を知っていく
④	事業を生み出す	2026年6月 第一版完成 2026年12月 ファシリテーター育成プログラム完成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IPPO Projectのモニター実施を経て、仕様を完成させる。</li> <li>・IPPO Projectのファシリテーターを新たに3人育成できる体制をつくる。</li> <li>・徳島大学の講座など、学生や学びたい人向けの講座として、外部団体と連携し実施する。</li> <li>・講座の定期開催</li> <li>・企業や自治体の職員研修として実施する。</li> </ul>	環境省、農林水産省、CSRCSVに取り組む企業、大学などの教育機関、金融機関、協同組合、福祉事務所、マスメディア、ツールのレベルアップ、リソースをブラッシュアップしてくれる専門家、実施マニュアル作り、組織体制の強化

# 中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

## ■中間支援主体の1年間の支援目標

本事業終了後も事業を持続できる資金、体制の見込みが立っている。取組に参加する個人・団体が増え、ありたい姿の実現に近づいている。

## ■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	農家の巻き込みは進んできたものの、徳島版フードシステムの確立に向けては、より多分野の巻き込みが必要。	すでに関係ができている人から、取組に興味がありそうな人を紹介してもらう。
②	地域のニーズを拾えているか。	巻き込みたい分野の関係者に、各業界の現状や課題をヒアリングする。協働できる部分があるか検討する。
③	ありたい姿に近づくために効果的な手法なのか、各事業の成果をどう積み上げ相乗効果を上げていくか、事業全体をイメージし計画できているか。	目標に向けて、どこを強化・追加したらいいかを分析する。それぞれの事業で、どんな成果を出せるのか、相乗効果を出せるのか、事業全体の関係図を書く。

# 中間支援主体のありたい姿

## ■中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

これまで支援したり連携した団体は、すでに事業を展開し、ステークホルダーの広がりもある団体ばかりであったため、今回のようなスタートアップ段階の団体への支援ノウハウを身に着け、新たなプレーヤーの発掘や事業支援ができるようスキルアップをしていきたい。

## ■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

コウノトリのペアが年々増加し、全国でコウノトリが新たに定着した地域が増えている。また、コウノトリを呼びたいと、ビオトープの整備や環境保全型農業の普及に向けて取組を始める地域も出てきており、徳島県内でも取組を始めた地域がある。本事業で獲得した中間支援機能を活かして、新たに取組を始めようとしている団体へ仲間づくりや事業計画へのアドバイス等を行い、取組を開始し持続できるよう支援していきたい。それぞれの団体が安定して取組を持続できるようになれば、ネットワーク化することで、取組の相互参照や意見交換をする機会をつくり、ステップアップしていきたい。

# 活動・支援スケジュール【R8当初計画】

## ■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】		◆中間支援ギャザリング①	◆キックオフ（ブロックごと）			◆ステークホルダーMT		◆交流会			◆中間共有会（ブロックごと）		
		農家、企業を訪問し賛助会員を募る											
		農家座談会の開催											
		オンライン対話会の開催（毎月第4木曜）											
		とくしまCSA風土およびプラットフォーム関連の情報発信											
		◆勉強会			◆勉強会				◆勉強会			◆勉強会	
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】		マルシェの開催（毎月第三日曜ほか）											
		農業体験の開催											
		CSAの立ち上げ支援											
		IPPO Projectの実施											
			◆IPPO Project完成										
		外部団体への講演・研修・ワークショップの提供											
中間支援主体の支援・取組計画		◆定例会	◆定例会	◆定例会	◆定例会	◆定例会	◆定例会	◆定例会	◆定例会	◆定例会	◆定例会	◆定例会	
		◆MOEEPO定例会	◆MOEEPO定例会	◆MOEEPO定例会	◆MOEEPO定例会	◆MOEEPO定例会	◆MOEEPO定例会	◆MOEEPO定例会	◆MOEEPO定例会	◆MOEEPO定例会	◆MOEEPO定例会	◆MOEEPO定例会	

備考（補足説明など必要な場合は記載）